



2022年  
4月号  
NO-89

# 地域リハビリテーション支援センター

(神奈川県リハビリテーション支援センター)

だより



## この困難な時代にあたって...

今年も春の訪れとともに桜が満開となり、この地域リハビリテーション支援センターの便りが届く頃には新緑が鮮やかになっていることと思います。

コロナ禍も3年目となり、未だ感染予防に苦心されていることと思います。加えて、ウクライナへのロシア侵攻、燃料や穀物などの高騰で世界的にも厳しい経済状況になっております。世界中の人々がウイルスに怯え、戦禍で多くの人々が亡くなり、未だに命の危険にさらされ、食糧やエネルギー不足で経済的危機に直面し、21世紀の世の中であって地球レベルで苦境に立たされている状況は想像を超えるものがあります。

近年地域包括ケアシステムの構築に国を上げて取り組んでいます。私ども地域リハビリ支援センターでも、災害対策・高齢者対策・障がい者の方々も安心できる地域社会の充実など、日々の生活の中でより安心して暮らして行ける社会作りをリハビリテーションの観点から進めてまいりました。

令和4年新年度も新たな気持ちで取り組んでいく所存です。この困難な時代を乗り切るため、ご理解ご支援のほどをよろしくお願いいたします。

所長 村井政夫



地域支援室メンバー

右側から、  
SW 小川、副所長 磯部、PT 小泉、所長 村井、  
事務 砂川、OT 清水、(事務 長井)



高次脳支援室メンバー

右側から、  
心理士 山岸、医師 青木、SW 奥山、Co 植西、  
Co 瀧澤、Co 永井、(職業指導員 松元)

なかなか COVID-19 の収束が見えない中、3年目を迎えました。以前であれば集合形式で開催していた研修会、地域支援者の顔が見える関係を構築していた事例検討会や各種会議等がオンラインでの開催となり、地域を訪問する機会もかなり減少しました。しかし、今まで様々な事業や連携を通して築き上げた地域支援者や当事者家族等との関係を途切れさせることなく、継続させていくために工夫をしてきました。

例えば、Zoom を活用した研修会では、ただ単にパワーポイントの画面を流すだけではなく、OBS というソフトを導入して演者を同時に視聴できるようにすることで、より臨場感のあるオンライン研修会になるように工夫しました。

事例検討会では、オンラインながらも事例提供者、視聴者、司会者がやり取りをしながら進行できるものとなりました。4か所の地域で定期的で開催されている当事者家族会も、会場開催、時短開催、オンラインと会場を併用したハイブリッド開催等、様々な工夫をしながら実施されています。先が見えない中でも、何とか知恵を絞って、事業を進めていきたいと考えておりますので、本年度もご理解、ご協力いただけますようお願いいたします。

(瀧澤 学)



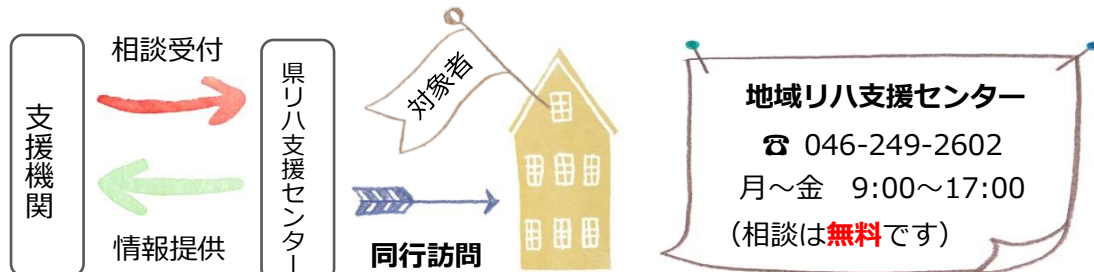
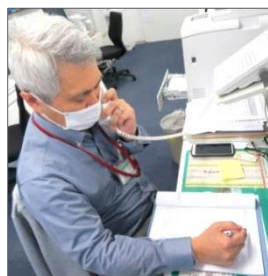
## 地域リハ支援センターの 事業内容

### ① リハビリテーション専門相談

地域リハ支援センターでは「**地域の支援者の支援をする**」二次的支援機関としてリハビリテーションに関する総合相談・情報提供・技術支援などを行っています。

相談内容に応じて専門職が同行訪問し、現場で課題解決のためのアセスメントを行います。また、コロナ禍で自宅や施設への立ち入りがむずかしい場合は、オンライン（Zoom）で対応することも可能です。

高齢者・障がい者が住み慣れた地域で安心して生活が送れるように、地域生活を支える最前線にいる支援者のみなさま、一緒に考えていきましょう！！



地域リハ支援センター

☎ 046-249-2602

月～金 9:00～17:00

(相談は**無料**です)

昨年度は緊急事態宣言が長かったこともあり、訪問の件数は一昨年度にくらべて少なかったのですが、新規の相談やオンラインでの相談が徐々に増えています。相談の内容としては、神経難病のコミュニケーション支援、知的障害の方の身体機能の低下などが多いです。コロナ禍において地域で解決がむずかしいニーズがあるものと思われます。そうしたニーズの発掘も当センターの課題と言えます。お電話でご相談していただいた上で、対応方法や訪問を検討していきます。よろしくお願いいたします。

(小川 淳)

令和3年4月～

令和4年3月末までの

専門相談実績

	神経・筋疾患	脊髄障害	脳血管障害	骨関節疾患	後天性脳損傷 (除CVA)	脳性麻痺	知的障害	視覚障害	その他(切 断・加齢等)	不明	合計
県央	17(3)	2	4(1)	6	3	7(3)	*18(3)	3	2		62(10)
湘南東部	4(1)	1					1	1			7(1)
湘南西部	3	1	3		2			2	1		12
県西	2	2				4		3			11
横須賀・三浦	2	1					2(1)	5	4		14(1)
合計	28(4)	7	7(1)	6	5	11(3)	21(4)	14	7		106(12)

\*オンライン件

	障害者更生 相談所	居宅介護 支援事業所	市町村	地域包括 支援事業所	本人・家族	障害者相談 支援事業所	障害者施設	医療機関	訪問看護 事業所	保健福祉 事務所	高齢者施設	訪問介護 事業所	教育機関	その他	合計
県央		15(3)	2	1	3	5(1)	*23(5)	2	6(1)		4			1	62(10)
湘南東部					1		1	1		4(1)					7(1)
湘南西部		3		1	3	3			1		1				12
県西					2	3		2	4						11
横須賀・三浦			1	4	4	4(1)		1							14(1)
合計		18(3)	3	6	13	15(2)	24(5)	6	11(1)	4(1)	5			1	106(12)

\*オンライン件

( )の数字は訪問の件数

### ② リハビリテーション専門研修

地域リハ支援センターでは、医療職・福祉職・介護職の方々を対象とした研修会をさまざまなテーマで開催しています。特徴としましては、座学だけではなく体験や実技練習・グループワークなどを交えて、より理解が深まるような工夫をしています。

昨年度は18コースを予定していましたが、コロナにより5コースが中止となってしまいました。また、開催した14コースはすべてオンラインに変更となりました。今年度こそ！当センターの“うり”である体験や実技練習が行えますように…。今年度もよろしくお願いいたします。

(清水 里美)

2022年 研修会予定



1	脳血管障がいのリハビリテーションの実際 下肢装具編	5月14日(土)	神奈川県総合リハセンター
2	摂食嚥下障がいのリハビリテーションの実際	5月21日(土)	ウィリング横浜
3	からだにやさしい介助入門 床上動作編	6月7日(火)	ウィリング横浜
4	からだにやさしい介助入門 移乗動作編	6月21日(火)	ウィリング横浜

## 2022年 3月10日(木) オンライン研修会

小田原市における地域リハビリテーション情報提供書を考える～多職種が共有できる情報とは～

地域でご活躍されている専門職の方々にご講演をいただき、研修会を開催しました。

開催時間も18時～と参加しやすい時間帯ということもあり、小田原市に限らず、それ以外の市町村や県外からもたくさんのお申し込みをいただきました。職種もリハビリテーション専門職（PT/OT/ST）・看護師・保健師・介護支援専門員・主任看護支援専門員・社会福祉士・ソーシャルワーカー・行政・臨床心理士・介護福祉士など、最終的に91名の参加者となりました。生配信で多職種の方々の講演とディスカッションは刺激的で新たな発見があったのではないかと思います。

**講演1** では、神奈川県地域リハビリテーション支援センターのソーシャルワーカー 小川氏による『訪問看護ステーションのリハビリテーションに関するアンケートの調査結果から現状分析と課題の報告』としてアンケート結果の報告がありました。

**講演2** では、Smiley 訪問看護の看護師 戸松氏による『欲しいリハビリテーション情報とは？訪問看護師の立場から』と題して、実際の情報提供書の提示があり、「数年前に比べて内容が充実し、わかりやすい記載になっている。」と報告がありました。もう少し知りたい内容として、①在宅環境を踏まえた達成状況 ②実施しているリハビリテーションの内容の詳細 などが挙げられました。

**講演3** は、ケアネットOHMYの介護支援専門員 山本氏による『欲しいリハビリテーション情報とは？介護支援専門員の立場から』と題して、小田原市で使用されている多職種連携シートの紹介がありました。欲しい情報としては、①継続すべきリハビリテーションや機能訓練内容へのアドバイス（頻度や時間）、②リハビリテーション専門職以外ができる機能維持の方法 などが挙げられていました。また、病院との連携で困ることとして「専門用語が多く理解できないことがある。」、要望として「退院後も相談にのってもらいたい。」というお話がありました。

**講演4** は、ARS（足柄リハビリテーションサービス）訪問リハビリステーションの理学療法士 山田氏による『欲しいリハビリテーション情報とは？地域で活動するセラピストの立場から』と題して、欲しい情報として、①医学情報（医学的診断がわからないことがある。状態が情報と違うことがある。）②本人・ご家族へどのように予後予測を伝えたのか、③（リハビリテーション内容として）目的と訓練内容や本人・ご家族への指導内容などが挙げられました。また、ARSで使用されている在宅から医療機関への情報提供シートのご紹介がありました。

**最後のディスカッション** では、情報の流れと内容にわけて話が進められました。

流れについては、誰がどこに伝えればよいのか、ケースや施設によってばらつきがあることや、受けるサービス（医療か介護保険か）によっても微妙に違っているようです。将来的には、クラウドなどICTの活用期待されているとのこと。

内容については、何に焦点を当てるかによって違うこと、ディスカッションの場では出ませんでした。研修会終了後の雑談の中で、情報の焦点が同じ職種においても、ICFの心身機能・身体機能なのか、活動なのか参加なのか、または環境因子や個人因子なのか、個人によって違っているのが現状だそうです（受ける側も同様）。

また、同じリハビリテーションの職種の中でも統一されておらず戸惑うこともあるそうです。対策は、との話もありましたが、情報はあくまでも情報であり、コロナ禍でコミュニケーションの取りにくい状況ではありますが、ケース会議などお互いに確認し合うことが大切ではないかとのことです。

最後に、実施後のアンケートに寄せられた、ご意見・ご要望の一部を紹介させていただきます。

**\*ご意見**

- 多職種が共通言語を使用し情報を共有し支援に反映することは大変重要なこととは思いますが、どのような言語やツールを使用すべきかは難しい課題だと思います。
- 神奈川モデルみたいに、我が県ではこれで連携しましょう！みたいな多職種連携シートがあると広域連携ができるのかなと感じました。
- 連携について、今自分に出来ていないことは何なのか、また周りは何を求めているのかを見つめなおす機会になりました。
- ケアネットOHMYが取り組んでいる「多職種連携シート」大変参考になりました。
- 大変勉強になりました。特に在宅から医療機関への情報提供書を発行することはとても意味がある事と思いました。
- 多職種の意見が聞いて非常に参考になりました。

**\*ご要望**

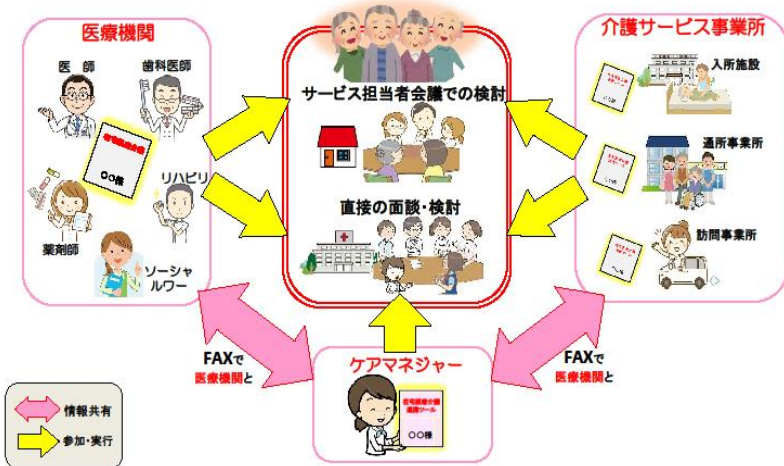
- 地域支援事業についていろいろな地域の話しが聞いてみたい。
- ICTの活用や在宅でのリハビリテーション会議に関する内容を聞いてみたい。
- 今日の続き、「課題をどう解決していくのか」をテーマに研修をお願いしたい。

その他大変多くのご意見・ご要望をいただきました。今後の企画の参考にさせていただきます。ケアネットOHMYの資料2点「多職種連携シートを利用した連携の流れ」と「多職種連携シート」を掲載させていただきます。

今年度も神奈川県リハビリテーション支援センター活動への、ご理解・ご協力をお願いいたします。

(磯部貴光)

**多職種連携シートを利用した連携の流れ**



**多職種連携シート** 令和 年 月 日

発行元	事業所	●●居宅支援事業所	<input type="checkbox"/> (福具) <input type="checkbox"/> (歯科) <input type="checkbox"/> (薬科) <input type="checkbox"/> (栄養) <input type="checkbox"/> (通所) <input type="checkbox"/> (訪問) <input type="checkbox"/> (介護) <input type="checkbox"/> (福具)
	担当者	△△ △△	
	TEL	0465-xx-xxxxxx	
	FAX	0465-□□-□□□□	

いつもお世話になっております。下記事項についてご確認お願い致します。

ふりがな	○○ ○○	性別	生年月日
氏名	○○ ○○	様	昭和 ☆年☆月☆日

目的	<input type="checkbox"/> ご利用者を担当する旨のご挨拶 <input type="checkbox"/> ケアプラン/計画書 内容について <input type="checkbox"/> サービス担当者会議について【 <input type="checkbox"/> 参加依頼 <input type="checkbox"/> 調整 <input type="checkbox"/> ご意見伺い 】 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> ↓ご利用者に関する下記項目について！↓
----	--

大項目	<b>福祉用具・装具についての報告</b>
具体的な項目	
具体的な内容(報告・相談)	

↓【返信欄】↓ 回答日【 / / 】 回答者氏名【 】

回答方法	<input type="checkbox"/> 直接会って対応 一問一答 <input type="checkbox"/> お越しください ( 月 日 時 頃 ) <input type="checkbox"/> 電話での対応 → 電話します <input type="checkbox"/> 電話下さい ( 月 日 時 頃 ) <input type="checkbox"/> メールで回答します
回答内容	<input type="checkbox"/> 確認しました <input type="checkbox"/> 当シートで返答します

小田原市 編後町 真淵町 湯河原町 ケアネットOHMY 在宅医療・介護連携ツール作成検討会

**おわびと訂正**：前月号で訪問看護ステーションへのアンケート結果を掲載しましたが、「訪問**介護**ステーション」と記載してしまいました。この場を借りてお詫び申し上げます。

編集後記

季節は巡り、今年もうらかな季節がやってきました。コロナ禍での生活もさることながら、気がかりなことが…。当たり前前の平和な生活がこんなにも脆く崩れるとは…21世紀に歴史で学んだような出来事が起こるとは。一日も早い平和を願うばかりです。J/O

〒243-0121  
 神奈川県厚木市七沢516  
 神奈川県総合リハビリテーション事業団  
 地域リハビリテーション支援センター  
 ☎ 046-249-2602  
 FAX 046-249-2601